

郷土料理はつとの味に舌鼓

第4回全国はつとフェスティバル

登米地方に古くから伝わる郷土料理「はつと」を、より多くの人に知ってもらおうと、第4回全国はつとフェスティバル（同実行委員会主催）が12月2日、中江中央公園で開催されました。

開会式では、飯塚哲朗実行委員長（東和）が「4回目となる今回は、仙台・宮城・デステイネーションキャンパーンのプレキャンペーンの一環として開催します。回を重ねる



各販売コーナーには行列ができました

たびに参加団体、種類が増えていますので、はつとのおいしさを感じてください」とあいさつしました。

販売されたのは、地域婦人団体連絡協議会の「油ふ入り汁はつと」「五目風あんかけはつと」、登米はつと街道加盟店の「長沼ハスはつと」「あずきはつと」など、地元食材をふんだんに使用した名物はつと20種類。そのほか、県内と岩手、福島、山梨の3県



お目当てのはつとで身も心も温まった来場者

から「あばれほうとう」「カニばつと」「豆乳はつと」など、地場産品を使用したはつとやはつとに類似したメニュー16種類も並べられました。

会場では、吉川団十郎さんの「はつとの唄」に振り付けけた新田婦人会による「はつと踊り」や太鼓演奏、よさこい踊りなどのステージイベント、お楽しみ抽選会も催され訪れた人たちはお目当てのはつとの味を楽しみました。



歌に振り付けけた「はつとの唄」を踊る新田婦人会員

歌い継がれている唄で競演

第7回みやぎ長持唄全国大会

第7回みやぎ長持唄全国大会（同実行委員会主催）が11月25日、南方農村環境改善センターで開催されました。

長持唄は、婚礼で花嫁が家を出るときや花婿の家に到着したときなどで歌われたもの



県内外から90人が参加して行われた長持唄全国大会

です。登米地方でも古くから歌い継がれている民謡で、現在は婚礼の席に欠かせない歌として、全国各地で愛唱されています。

大会には県内をはじめ、栃木や岩手、福島県などから90人が参加。白熱した予選会となりました。



自慢の「のど」を披露する参加者

決勝大会へは「熟年の部」5人、「一般の部」15人が勝ち進み、それぞれが個性あふれる歌い方で自慢の「のど」を披露しました。

各賞の入賞結果は次のとおりです（上位入賞者のみ掲載敬称略）。

【熟年の部】優勝＝佐藤慶喜（岩手県藤沢町）
 【一般の部】優勝＝倉島嘉一（涌谷町）

民俗芸能や郷土料理で親睦

市国際まつり・クリスマスパーティー

民俗芸能や自慢の郷土料理などで交流と親睦を深める、市国際まつり&クリスマスパーティー（市国際交流協会主催）が12月16日、中田農村環境改善センターで行われ、市内の外国語指導助手や国際



各国自慢の郷土料理を食べながら会話を楽しみました

交流協会会員、市民ら約200人が参加しました。

会場には、青少年海外派遣事業、姉妹都市交流事業の写真・パネルコーナーなどを設置。ステージでは、県内在住のインドネシア、ウイグル、韓国などの出身者がそれぞれの民俗楽器を使った演奏や歌踊りを披露しました。

市からは、登米高合唱部の部員15人が「赤鼻のトナカイ」などのクリスマスソングを披露。会場はクリスマスモード一色に包まれました。

また、参加者が軽食を一品ずつ持ち寄って、食べながら会話を楽しむ「ポットラック」形式のパーティーも開催され、すしやチヂミなどの各国自慢の郷土料理を味わいました。



クリスマスソングを披露した登米高合唱部

食と農の豊かさを再発見

第2回地産地消推進のつどい

第2回地産地消推進のつどいが12月9日、サンシャインプラザ21で開催され、市内の生産者や流通関係者、住民ら約150人が参加しました。

今回のテーマは「登米の食と農の豊かさ再発見」。東北

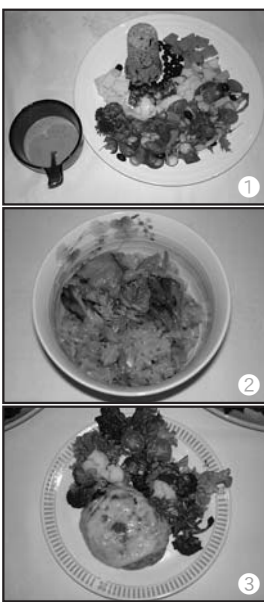


市内産食材を使った創作料理が振る舞われた試食会

大大学院農学部長の工藤昭彦さんが「地産地消で進める食農教育」と題して、流通や教材としての地産地消の役割などについて講演しました。

続いて、やくらい土産センターの藤重子さん（加美町）が、新鮮で安全な食品を消費者に提供するための運営・管理方法などの発表をしました。

試食会では、「登米産牛のカルパッチョ」「登米産りんごのアップルパイ」「登米産牛握り寿司」などの市内産食材による創作料理や、「米粉クッキー」「米粉から揚げ」など、登米産米を使った米粉の料理が振る舞われ、参加者は登米



①「菜々菜玄米・豆サラダ」（田村千恵子・迫）②「舞茸と鮭の味付けご飯」（熊谷美喜子・中田）③「里いも入りチーズハンバーグ」（石川喜生子・中田）



地産地消の役割などについて講演する工藤さん